

# 茨城県生協連ニュース 臨時号 No.36

## 東日本大震災復興情報 がんばろう！茨城

2011年6月28日 発行:茨城県生活協同組合連合会 水戸市梅香 1-5-5JA会館分館5F 電話 029(226)8487

地震被災発生から、茨城県生協連の各会員生協は、営業の再開と組合員支援、地域支援などに取り組んでいます。

その取り組みの一部を紹介します。震災からの復興のために、力を合わせてがんばりましょう。

### <宮城県災害ボランティアバスで

気仙沼市に日帰り支援に行ってきました。>

2011年6月3日(金)、今週もいわき2011年6月25日、宮城県気仙沼市へ災害ボランティアバスに27名が参加しました。震災で甚大な被害を受けた宮城県へ、茨城県民の力を届けようと茨城県生協連がと茨城県社会福祉協議会が共催し、「宮城県災害ボランティアバス」を企画しました。被災地までの距離や、現地での宿泊や食事手配困難の状況から、個人ボランティアは難しく、団体ボランティアバスを運行することで、支援の気持ちとより多くの力を被災地に届ける取り組みです。

当日朝、コープテリ土浦センターから12名、水戸インターから4名、那珂市役所前から11名の計27名がバスに乗り込みました。参加者の内訳は、いばらきコープ職員と家族11名、パルシステム茨城職員2名、いばらきコープ虹の会9名、県連職員と家族4名。最終出発地の那珂市からバスで移動すること6時間、渋滞で遅れ午前11時頃、宮城県気仙沼市災害ボランティアセンターに到着しました。気仙沼市は、宮城県の最北端に位置し、人口73千人の都市、津波の被害で港湾沿岸部が大きく被災し、死者970人、行方不明者810人、家屋被害は全壊8,383戸にのぼる被害を受けました。

支援に入ったのは、気仙沼市南郷2区、被災した南気仙沼小学校の南側に位置する住宅地で、そばを流れる大川をさかのぼった津波で多くの家が2階ひさし約3mほど浸水した場所で、自家用車や家屋のがれきがあちこちにまだ残されていました。すぐにオリエンテーリングを受けて、3つのチームに分かれ、南郷2区の側溝の泥上げ作業に入りました。全員泥だらけになりながら、少しでも助けたいお手伝いしたいとの思いでがんばりました。かき出した泥の土のう袋は、この1日で約450袋にもなりました。被災地の復興までの道のりは、まだまだ遠いように感じました。

#### <参加者の感想から>

- ・はじめての貴重な体験をしました。
- ・あらためて被害の甚大さを実感、見ることと実際にやるのでは大違い。
- ・復旧が遅れているのを実感、短かったが濃い1日だった。
- ・高校生でもやれることを考えることに今日の経験を生かしたい。
- ・3か月でも手つかずのことがたくさんあって驚いた。自分の身近な人にこの状況を伝えたい。
- ・はじめて参加した。自分の目を見て言葉を失った。住民の方の気持ちを思うとつらい。良い経験ができました。
- ・とても貴重な体験ができた。もっと周りの人に伝えることで役割を發揮したい。茨城でもできる支援方法を考えてみたい。



<市内は廃車置き場のよう>



<南気仙沼小学校の校庭にも廃車>



<手つかずのアパートがあちこちに>



<最初のオリエンテーションの様子>



<ごみで埋まり見えない側溝>

東日本大震災で被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

・たくさんの方が支援に集まったことがすばらしい。今後がんばりたい。・参加ははじめて。微力でも役にたったかなと思う。  
・初めて参加した。原発のことばかりで復旧が進んでいないのを実感した。また機会あれば参加したい。  
・はじめて参加。有意義な経験をした。近所の住民の方の体験を聞くことができた。  
・雨が降らなくてよかった。前に進んでいないことを感じた。復旧には何年もかかると思う。長いスパンで手伝いたいと思う。  
・ちいさな自己満足かもしれないが、ボランティアにまた参加してみたいと思います。  
・テレビで見るのとは大きく違うと思った。これから長期戦になると思う。また手伝いたい。  
・虹の会のみなさんの参加に感謝。まとまりの力のすばらしさを実感しました。こうした取り組みを続けていくことが重要です。今後も取り組みを継続したい。  
・3 か月経っても復旧が進んでいないのを実感した。こつこつとした小さな作業はまだたくさんあると思う。今後も参加したい。娘と一緒に参加し、親子で同じ体験を共有できてよかった。  
・はじめて参加した。ネットなどで情報を得ていたが、生活感のなくなった家屋を見ると胸が苦しい。こうした支援の積み重ねが今後必要だと思う。  
・作業して辛かった、もの足りなかったという両方の気持ちがある。一緒に参加した娘の成長にも驚いた。母親の私の方が足手まといだったかな。  
・バス募集の話聞いて迷わず参加したいと思い母に頼んで、被災地の手伝いに来た。臭いもすごかった、がれきもすごかったけど、南郷2区の区長さんの話を直接聞くことができうれしかったです。

・自分の家が同じように被災したらどうしようという思いを実感し、涙が出そうになりました。次回も参加したい。  
・はじめて参加しました。ひどいな、すごいなと思いました。小さいことでも協力してやることは大切なことということを実感しました。今後は職場の仲間を誘って参加したい。  
ご参加いただいた皆さまに感謝いたします。



<南郷2区長さんと参加した27名のみなさん>

<感謝のことば> 南郷地区も津波で大きな被害を受け、地区民だけの力ではどうにもならず、多くの方々のお力をお借りしてなんとかここまで来ました。本当にありがとうございます。気仙沼の魚市場も一部ですが復旧もすすみ少しですが光が見えてきました。かならず元気な気仙沼をお見せいたします。その時はぜひ観光でお越し下さい。(みやぎ生協 地域代表 理事 春日京子)



<左:泥でうまった側溝、右:作業後水が流れる>



<3チームで作業します>



<側溝の泥をかきだします>



<作業後ふたを戻してきれいに>

放射能関連学習会「放射能物質とわたしたちの健康と暮らし」(第2弾) 主催 茨城県生協連

日時: 2011年7月15日(金) 13:00 受付、13:30~15:30

場所: コープつちうら店 2階 コミュニティールーム

〒300-0823 土浦市小松1丁目4-27 電話 029-825-0231

講師: 田内 広 先生(茨城大学教授) 理学部、広島大理学研究科修士課程修了、放射線生物学、分子生物学

県南地区で開催します。

参加者募集中! : 申込みは県生協連まで